

二〇二二年度

中学校卒業式・後期終業式

本物の学び

桜をはじめ春の花が咲く頃に降る雨を「催花雨（さいかう）」と言います。「催花」は同音の「菜花」とも書けますので「菜種梅雨」とも言います。厳しい寒さを越え、芽吹き咲く花たちを祝福する、柔らかな雨です。

静岡英和女学院中学校の卒業証書を授与された七一名の皆さん、卒業おめでとう。

そして今日の日までお嬢様を見守られてこられたご家族の皆様には心よりお祝い申し上げます。皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

また本日は進級する中学一年生から高校二年生の後期終業式でもあります。皆さんの学校生活の導きとみ恵みに感謝し、神様の祝福をお祈りします。

さて中学を卒業するオレンジの皆さん、皆さんの中学三年間は申し上げるまでもなく、新型コロナウイルス感染症と共にありました。緊急事態宣言下、入学式は一ヶ月遅れとなりました。学校生活はオンライン授業から始まりました。教師にとっても初めての経験でした。授業の意味、教師の意味、学校へ行く意味、そもそも学校がある意味を考えさせられたのは私だけではないと思います。

英和女学院は、昨年四月から定期試験を止めました。小テスト、単元テストを毎日行い、皆さん自身が毎日の学びを通して自分自身を見つめることを大切にしました。自主的、主体的に自分自身の人生というストーリーを歩んでほしいからです。

学校の授業とテストは答えが一つです。テストはみんな同じ答えをするように出来ているからです。でもそれは学ぶことの入り口に過ぎません。学校に来て、友だちと机を並べ、お喋りをし、歌って踊って、演じて奏で、おにぎりをほおばり、喧嘩した

り笑ったり泣いたり、同じ日、同じ瞬間は一つもありません。もちろん同じ人もいません。

だから衣替えも一斉にするのを止めました。冬服か夏服か、季節の変わり目に感じる体感はみんな違います。だから自分で考え、自分で選び、自分自身の選択を見つめてほしいのです。

そして三年間のマスク生活の最後に、中学を卒業するオレンジの皆さんは「ESG（英和総合学習）英和卒業論文」の発表をしてくれました。社会の動きに目を向け、一人ひとりがテーマを選びました。同じテーマでも同じ発表は一つもありませんでした。そして正解もありませんでした。そして解決も見つからないまま課題で終わった発表も沢山ありました。課題を課題としてしっかり見つめ続ける、それが本物の学びです。コロナ禍にありながら、本物の学びのスタートに立った皆さんに心から敬意と賛辞を送ります。成長した皆さんは目映く、私の誇りです。これほどの喜びと感謝はありません。どうぞこれからも困難と課題と

向き合う学びを続けましょう。

進級する皆さん、特に中学一年黄色の皆さん、高校一年緑の皆さん、そして中学二年青、高校二年赤の皆さんの中には、初めての英和生活、初めての礼拝、算数から数学、初めての前後の二期制、初めての定期試験のない、小テストに単元テストの毎日に戸惑い、忙しい日々だったかもしれません。もちろん教師の宿題の出し方、言葉や行動など学校も反省しなければなりません。皆さんの伴走者として寄り添えるように、共に学び続ける教師、学校であるように努めていきます。

そして本物の学びに正解は一つでないように、本物の学びには終わりがありません。テストの結果も評価も、それは終わりではなく始まりです。そして卒業も終わりではなく、次のステージへの出発です。私も教師も一生勉強です。始まりも終わりも神様がご存じのです。これだけは自分では決められません。私たちはただ信頼して、共に学び続けるだけです。

今、生徒会は校則の見直しを続けています。自らの生活を自らふり返り、生徒みんなが学校生活をふりかえり考え、話し合い、表現しようとしています。先週、生徒会の引き継ぎ式がありました。現生徒会長が仲間と共に学んだ喜び、感謝、そして次期会長の力強い抱負を聞かせていただきました。そして最後に生徒部長が「生徒会は皆さんだけではない、すべての一人ひとりの、みんながいて生徒会です」と励ましていました。「英和生は一人ひとり神様に選ばれ、たったひとりのかけがえのない神様の子どもとして愛されている」と、私の心には響きました。

私たちにはパンデミック、ウクライナ侵攻、物価高、経済問題、少子高齢社会、そして地球温暖化による気候変動、異常気象など課題が山積しています。諦めと絶望を感じるような課題に押し潰されそうです。でも私たちは学び続けなければいけません。課題に目をそむけず、諦めず、遅々と

して進まないかもしれない、止まってしま  
うかもしれない、後ずさりしてしまうかも  
しれない。じっと耐えることも、結果がで  
ないこともあるでしょう。それでもお互い  
を信頼して、慰め励まし合って学び続けま  
しょう。この困難な時だからこそ、私たち  
は本物の学びに気づかされ、学び続ける恵  
みの時にいるのかもしれない。

いま催花雨に励まされ咲き誇る草花のよ  
うに、皆さんの学びがますます成長します  
ように祈ります。神様の導きとみ恵みを祈  
り、共に学び続けましょう。

二〇二三年三月一八日

静岡英和女学院中学校・高等学校  
校長 大橋 邦一